

新しい場所での新しい出会いが新たなつながりへ

＜「伝えようとする」ことの大切さ＞

記録：小松千尋

★会話と対話

約5年ぶりのホームステイに最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、素敵な家族とルームメイトに囲まれて1週間、本当に楽しく過ごすことができました。

5年前と違うのは、ホストファミリーとのコミュニケーションを考える余裕ができたことです。相手の質問を聞き取る・質問に答えるという一方的な会話のやり取りで精一杯だった頃相手と「話した」つもりでも会話の内容はほとんど覚えていない、ということがよくありました。もちろん1年間の留学を経験した今でも聞き取れない、返せないということは多々ありますが、今回のホームステイでホストファミリーと暮らして気付いたことは「伝えようとする」ことの大切さです。インターンはどうだった？ここでの暮らしは？日本と違うところは？ひたすらに質問を返すだけでは尋問にしか思えなかった会話のつながりも、相手が自分に興味を持ってくれていることを理解した上で会話の内容自体ではなく「相手に答えよう」と努力することで、相互理解という意味のある対話に変わりました。

今回自分がホストファミリーに伝えられたこと・伝えてもらったことはどれも忘れられない思い出になりました。今はこのインターンを支えてくれたホストの皆さんやルームメイトに感謝の気持ちでいっぱいです。

★家族を大切にすること

「ケネディー家は子どもが3人も20代で結婚してるから、彼らの子どもを含めたらすごい大家族ですね」「つい最近まで私の祖母が生きていたから、孫を含めるとうちは5世代までいたことになるのよ。」こんなの珍しくないわよ、とホストマザーは笑っていま



したが、晩婚化と少子化が同時進行する日本では稀有なケースなのでかなり驚いてしまいました。

大家族が当たり前なケロウナの人々は家族とのつながりを大事にするようで、世代や血縁の枠を超えた家族交流が盛んです。嬉しかったのは、日本から来た私たちのこともホストとしてではなく本当の“ファミリー”として受け入れ、接してくれたことです。日本と言う家族は核家族の範囲内で使われることが多いのですが、ケロウナの人々がいう広い意味での家族、という考え方がとても素敵だなと思いました。

★ケロウナという新たな故郷

1週間という短い期間でしたが、インターンやホームステイを通してケロウナが大好きになりました。またカナダに来る機会があったらケロウナに帰ってきたいと思います。